八郎川の被害状況

八郎川は、長崎市東部を流れる河川で、矢上地区の市街地を貫流して橘湾に注ぐ、延長約 8.8㎞、流域面積約 32.6㎞2 の二級河川です。
八郎川水系の災害は、国道３４号線沿いの矢上地区市街地の浸水に加え、山地斜面の崩壊、支川渓流の土石流災害が発生しました。

八郎川の被害状況

八郎川は大部分が未改修河川であり、河道全長にわたって河岸の浸食決壊、越流を生じました。
〈1982 長崎豪雨災害報告書より〉

（八郎川の被災状況）【写真：長崎放送（株）提供】

流域全体で甚大な被害を受けました。河口部にある「かき道橋」も、押し流されてしまいました。

（矢上地区の被災状況）

国道３４号線沿いの長崎市役所矢上支所前では、最大浸水深が約 2.5ｍに達し、路線バス２台が立往生しました。

（八郎川の被災状況）

八郎川の川底には、おびただしい数の車が散乱しました。八郎川への自動車の流失は 150 台を超えたといわれています。
〈1982 長崎豪雨災害報告書より〉